

【議論3】素案作成

デザインについて業務委託先の業者にレイアウト仮案の作成を依頼し、ごみ会議に出席を
してもらい各委員から意見をもらった。（以下、上：表紙・背表紙案 下：中面案）

表紙・背表紙（レイアウト案）



中面のレイアウト（案）



主に出た意見は以下のとおり。

- 表紙→背表紙と繋がっているデザインは斬新。表紙で見た物は最終的にどのような形になるのか、流れを追って見れるのが良い。
- 視線の流れを意識した構成にすることで「文書を読ませる」のではなく、「ぱっと見で内容を理解できる」構成になっている。当初の狙いが上手に反映されている。
- 今までへらすぞうというキャラクターについて深掘りをしてこなかったが設定が加わることで、市民にも身近に感じてもらえる。（背表紙上、誕生秘話について）
- 書きぶりが難しい。どうしても説明的になると教科書のようになってしまい、読む気が失せてしまう。内容を厳選しないと書きすぎ、読みたくないものになってしまう。
- ファッションロスと書くと「自分と遠いところにある話」「環境に意識が高い人向けの記事なのか」と敬遠されてしまうかも知れない。リサイクルトークという表題はちょうど良いと感じる。

これらの意見をうけて、議論をおこなった。表紙・背表紙部分については、ポイントとして「説明的になりすぎない。」「ごみがどのように変化して最終処分になるかの流れ」を意識することとし、文書案をつくることとした。

生活者の目線で考えると普段の買い物の様子から描く方が分かりやすいので、具体的な商品を購入廃棄するまでを書きたいとの話があったほか、8月に開催した西秋川衛生組合見学会の見学ルートに沿うような形で紹介したらどうかとの意見もあった。

ある委員から「ごみを捨てる時にいるもの・いないもの の2択の思考回路が働く人がほとんどである。これが **いるもの・資源になるもの・ごみにせざるを得ないもの の3択**の思考回路になってもらえたら良い」との話があり、**生活実感を伴う内容で共感してもらいながら3択の選択を示す内容にしたい**との話があった。

【中面についての議論】

中面については、サブテーマのリサイクルトーク／ごみ減量テクニックについての取扱いが議論になった。リサイクルトークのスペースがA4サイズ1ページ分なので、子細に書くと言明的になってしまうという懸念が示された。

その中で「相手に興味関心を抱いてもらえるのであれば、紙面の中で結論を示すことはない」「衣服のリサイクルの現状と、多様な意見があることを知ってもらえる場になれば良い」との意見があり、世代・性別ごとの考えを列記して「あなたはどう衣服のリサイクルについて考えますか」と投げかける書きぶりにするとの結論に至った。

議論4 第1校完成 へ続く